

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

芦北町地先における被覆網によるアサリ資源管理

県南広域本部水産課・川崎 信司、池崎 公亮

【背景・目的・目標（指標）】

令和４年度（2022年度）は、芦北町地先において、被覆網によるアサリの資源管理の取り組みを普及指導し、近年ほぼ漁獲のなかった芦北町地先でもアサリの漁獲が可能なことが実証された。

そこで、今年度は、アサリの生産規模の拡大を目的として、普及指導を行った。

【普及の内容・特徴】

（１）生息状況調査

調査場所：芦北町田浦地先及び計石地先の干潟漁場

調査期間：令和５年（2023年）４月～令和６年（2024年）３月

調査方法：令和５年（2023年）６月までに9mm目合、4m×4mの網を田浦地先へ67枚、計石地先へ39枚設置し、アサリの生育状況（殻長組成・生息密度等）を確認した。

（２）漁獲方法の変更

令和４年度（2022年度）は手掘りで漁獲していたが、漁獲量を増やすため柄付きジョレンの導入を指導した。

【成果・活用】

今年度も令和４年度（2022年度）と同様に、被覆網下のアサリ稚貝は順調に生育した。令和６年（2024年）２月の調査では、田浦地先は、殻長30mmをピークとして22～34mmのアサリが1,015個/㎡検出された。また、計石地先では、殻長30mmをピークとして20～42mmのアサリが2,800個/㎡検出された。両地先ともに、漁獲サイズまで成長しており、令和６年（2024年）２月以降、漁獲が開始された。

漁獲に当たっては、柄付きジョレンの導入を指導し、田浦地先では柄付きジョレンで漁獲するようになったが、兼業している他漁業種類との兼ね合いでアサリ漁業の操業日数が減り、昨年度と同程度の漁獲量に止まった。また計石地先では、柄付きジョレンでの漁獲作業の習得に時間を要したことから、手掘りでの漁獲がメインとなったが、採貝者数を増やすことで、漁獲量が昨年度より増加した。

【達成度・自己評価】

４ 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）

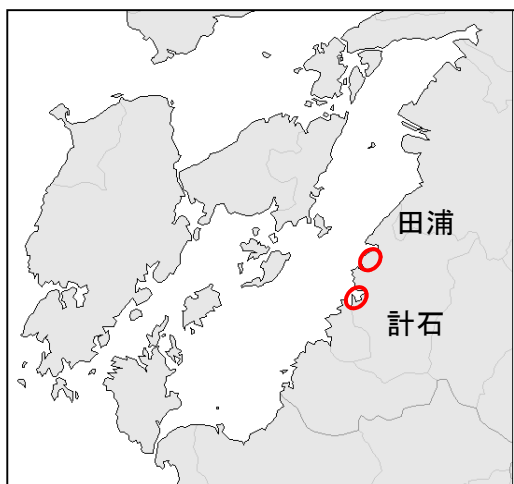


図1 芦北町（田浦、計石）



図2 芦北町田浦地先の網設置状況(9月1日)

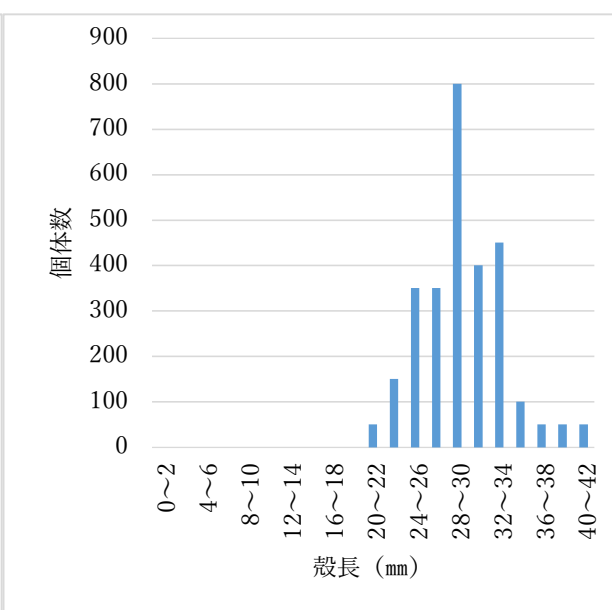
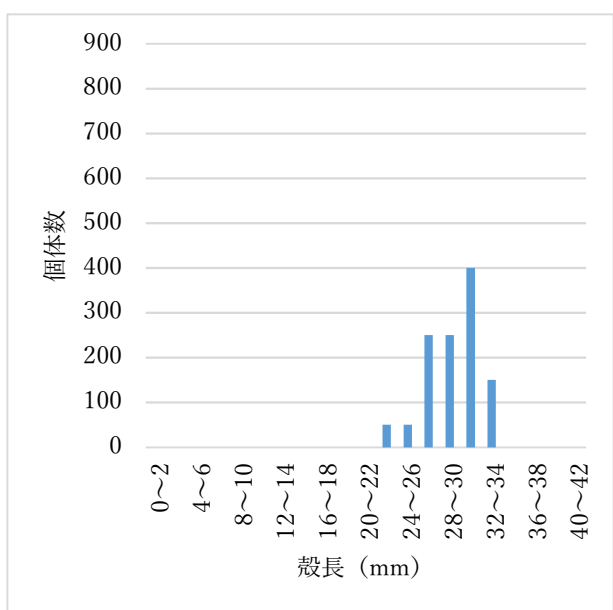


図3 アサリ殻長組成（左：田浦2月24日、右：計石2月27日）



図4 柄付きジョレンでの漁獲（左：田浦2月24日、右：計石1月27日）